

事業所名	グループホーム うらら (クリックすると事業者の情報にリンクします)
日付	平成19年 3月30日
評価機関名	㈱東京リーガルマインド (クリックすると評価機関の情報にリンクします)
評価調査員	A:現職 高等学校非常勤講師 資格・経験 看護師、社会福祉士、福祉住環境コーディネーター B:現職 看護師 資格・経験 看護師、介護支援専門員 B:現職 資格・経験
自主評価結果を見る	(事業者の自主評価結果にリンクします)
評価項目の内容を見る	(評価項目にリンクします)
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者一人ひとりが個人の尊厳を保ちながら、穏やかに生活できるよう支援している。職員は常に、「自分なら、自分の家族ならどうしてももらいたいかな」を考え、自分がされて嫌なことはしないようにすることを心がけている。 ・職員は、認知症の方の個々に違う様々な症状に対して適切な関わりができるようにしていきたいと考え、各自が自己研鑽している。 ・入居者一人ひとりが自由に明るく生活していけることを目指し、笑顔が出るような働きかけを心がけている。 		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者一人ひとりが、自分のペースで趣味に取り組んだり、したいことができるような生活を支援している。 ・共用空間や居室には入居者の作品を展示し、生きがいや喜びを感じられ、生活の場としての実感が湧くような環境づくりをしている。 ・落ち着かない時には、そっと見守りながら外を歩いたり、ドライブや買い物などで気分転換を図っている。 		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人であることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)
<ul style="list-style-type: none"> ・JR茶屋町駅から徒歩的に近い場所に立地し、周囲には民家や田園がある。入口は、柵で囲まれることも無く、玄関も常に開放されていて入居者は自由に出入りできる。日当たりもよく開放的で、庭にはベンチや椅子が設置されている。つい外に出て日向ぼっこや活動をしてみたい気分になる。 ・最高齢者は100歳。入居前は、車いす生活で全介助の状態であった。入居に当たって、居室の必要箇所に手すりを設置し、移動がしやすいように工夫した結果、現在では手すりや家具に伝わりながら自由に動けるようになり、家族からも喜ばれている。機能が低下しても諦めず、自立に向けて介護していこうとする姿勢は高く評価できる。 ・外出支援がよくできていることが、このホームの特徴である。「天気がいいから、どこか行きたい」と、入居者の希望に応え、いつでも気楽に出かけている。開所以来、出かけたところは多く、「岡山うららで行ったよマップ」には県内の名所がほとんど記入されている。 ・入居者一人ひとりが、過去の経験や能力、趣味を生かして生活できることを支援している。居室の一角に、入居者一人ひとり用のボックスを設け、したいことにすぐ取り組めるような配慮をしている。集中して作品作りに取り組む方、自分のボックスから歌の本を取り出して口ずさむ方、ベランダで洗濯物を干す方等、それぞれ自分のペースで生活し、それを職員が優しく見守り、時には励ましている。それでいてバラバラではなく、入居者同士も助け合って生活しているところが良い。
特に改善の余地があると思われる点(記述)
<ul style="list-style-type: none"> ・過去2回の外部評価で、食事を楽しむ支援が「要改善」であった。改善に向けて検討を繰り返した結果、現在では職員も同じ食事を摂っている。食事中、入居者と職員のテーブルが離れていて、一緒に楽しんでいるという雰囲気はやや伝わりにくかった。職員も入居者の間に入って同じ会話を楽しみながら食事をするなど、あと工夫欲しいと感じた。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の過去の経験や趣味を把握し、日々の生活の中で活かして取り組めるように支援している。カレー、お好み焼きなどの料理が得意だった方は、職員に励まされながら一人で挑戦されている。絵や習字が得意な方は、公民館等グループホーム以外でも展示できる機会を作っている。 ・一人であることは時間がかかっても自分でしていただくように、職員は励ましながら根気強く見守り、入居者の自信や自立に繋げている。 ・個人情報の保護とプライバシーに配慮し、面会簿はカード形式にしている。入居者の名前や写真の掲示については、入居者や家族の同意を得ている。 		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は、介護福祉士や介護支援専門員などの資格の取得に向け努力している。また、法人もそのことに対して支援する配慮があり、研修会に参加する機会を作ったり、法人内で勉強会を開催している。休日や夜勤明けの時間を利用し、自主的に研修に参加している職員もいる。 ・事故報告書(兼ヒヤリハット報告)があり、事故が発生したときには、再発防止に向けて話し合いをしている。ヒヤリハット事例がなかったので、今後は積極的に報告できるような仕組みを期待する。 ・毎年、自主評価を職員それぞれが行い、全体で検討している。各自が問題点や課題に気づくことができるよい方法であると感じた。 ・年2回、入居者も参加して防災訓練を実施している。すぐ近くに町内の自治会長宅があり、災害が発生した時には協力が得られるような体制作りができている。 		